

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成29年8月10日
【四半期会計期間】	第61期第1四半期（自平成29年4月1日至平成29年6月30日）
【会社名】	トランコム株式会社
【英訳名】	TRANCOM CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長執行役員 恒川 穰
【本店の所在の場所】	名古屋市東区葵一丁目19番30号
【電話番号】	(052)939 - 2011（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 コーポレートサービスグループ担当 川村 晋一
【最寄りの連絡場所】	名古屋市東区葵一丁目19番30号
【電話番号】	(052)939 - 2011（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 コーポレートサービスグループ担当 川村 晋一
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第60期 第1四半期 連結累計期間	第61期 第1四半期 連結累計期間	第60期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (百万円)	31,660	34,392	133,313
経常利益 (百万円)	1,298	1,207	5,543
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,449	608	3,708
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,353	568	3,559
純資産額 (百万円)	25,748	27,785	27,591
総資産額 (百万円)	42,421	44,348	44,700
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	149.31	62.72	382.02
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	148.89	62.55	380.97
自己資本比率 (%)	60.1	62.0	61.1

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式については、「株式給付信託(J-E S O P)」及び「株式給付信託(B B T)」制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託口)が所有している当社株式を控除対象の自己株式に含めて算出しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

物流業界では、EC市場の拡大による消費者の購買スタイルの変化に伴い、貨物の小口化、多頻度化が進み、輸配送ニーズが多様化するなど、物流構造が大きく変化してきております。そのような中で、一層深刻化するトラックドライバー不足、庫内作業員の人件費の上昇など、大きな社会問題に直面し、物流事業者にとっては大変厳しい事業環境となりました。

このような状況の中、当第1四半期連結累計期間におきましては、トランコムグループ中期経営計画「TRANCOM VISION 2020」に掲げる「人材・組織の強化」、「パートナー企業との関係構築」、「ICTの積極活用」の3つを成長の軸とし、コア事業がそれぞれ質の高い機能を果たし、その競争力のある事業が有機的に結合することで、高いシナジーを創出する企業グループへと進化するべく、取り組みを推進いたしました。

当第1四半期連結累計期間における連結業績は、売上高34,392百万円（前年同期比 8.6%増）、営業利益1,227百万円（同 8.3%減）、経常利益1,207百万円（同 7.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益608百万円（同 58.0%減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益の前年同期比減少の要因は、前第1四半期連結累計期間に特別利益に計上した段階取得に係る差益5億95百万円によるものであります。

当社グループでは、事業内容を3つのセグメント及びその他に区分しております。セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

ロジスティクスマネジメント事業

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	対前年同四半期 増減額	対前年同四半期 増減率
	百万円	百万円	百万円	%
売上高	11,641	11,598	42	0.4
セグメント利益（営業利益）	700	676	23	3.4

売上高は、新規業務の稼動及び既存拠点の物量増加に伴う増収要因はあったものの、前期において一部既存拠点で業務縮小した影響により、減収となりました。

営業利益は、前期に稼動した拠点の収益化による増益要因はあったものの、当期4月に稼動した拠点の初期費用の計上、一部既存拠点の生産性悪化により、減益となりました。

物流情報サービス事業

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	対前年同四半期 増減額	対前年同四半期 増減率
	百万円	百万円	百万円	%
売上高	17,372	19,149	1,776	10.2
セグメント利益（営業利益）	592	721	128	21.7

アジャスターの営業力を結集した貨物情報取得に加え、分析ツールを駆使したアプローチなどにより、チャーター部門・中ロット部門ともに、成約件数は順調に推移しました。また、人員の増強を図り、更なる事業成長に向けた取り組みを推進しました。これらの結果、増収増益となりました。

インダストリアルサポート事業

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	対前年同四半期 増減額	対前年同四半期 増減率
	百万円	百万円	百万円	%
売上高	1,967	2,093	125	6.4
セグメント利益(営業利益)	27	23	3	13.6

売上高は、国内派遣部門の新規顧客獲得や既存顧客における派遣社員の大幅増員などにより、増収となりました。

営業利益は、海外拠点での業務撤退の影響などにより、減益となりました。

その他

	前第1四半期 連結累計期間	当第1四半期 連結累計期間	対前年同四半期 増減額	対前年同四半期 増減率
	百万円	百万円	百万円	%
売上高	1,031	1,927	896	86.9
セグメント利益又は損失() (営業利益又は損失())	49	150	200	-

その他事業につきましては、Transfreight China Logistics Ltd.の連結子会社化に加え、タイでの物流業務稼働により、売上高は大幅に増収しましたが、タイでの物流業務の初期費用が想定以上にかかり、営業損失となりました。

(注) 上記の数値は、セグメント間取引の消去はしていません。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の前連結会計年度末との比較情報は次のとおりであります。

資産

流動資産は、受取手形及び売掛金が295百万円減少したことなどにより、134百万円減少し29,739百万円となりました。

固定資産は、投資その他の資産が39百万円増加した一方、減価償却などにより、有形固定資産が113百万円、無形固定資産が143百万円、それぞれ減少したことにより、218百万円減少し14,609百万円となりました。これらにより資産合計は、352百万円減少し44,348百万円となりました。

負債

流動負債は、夏季賞与支払いに備えて未払費用が865百万円増加した一方、買掛金が542百万円、未払法人税等が595百万円、それぞれ減少したことなどにより、512百万円減少し13,717百万円となりました。

固定負債は、リース債務が17百万円減少したことなどにより、33百万円減少し2,845百万円となりました。これらにより負債合計は、546百万円減少し16,563百万円となりました。

純資産

純資産は、利益剰余金が228百万円増加したことなどにより、193百万円増加し27,785百万円となり、自己資本比率は62.0%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた問題はありませぬ。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,324,150	10,324,150	東京証券取引所 (市場第一部) 名古屋証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	10,324,150	10,324,150	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成29年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年4月1日～ 平成29年6月30日	-	10,324,150	-	1,080	-	1,230

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 574,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,747,400	97,474	-
単元未満株式	普通株式 2,450	-	-
発行済株式総数	10,324,150	-	-
総株主の議決権	-	97,474	-

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が、100株(議決権1個)含まれております。
2. 「完全議決権株式(その他)」の普通株式には、「株式給付信託(J-E S O P)」及び「株式給付信託(B B T)」制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託口)が所有している当社株式40,200株が含まれております。なお、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託口)が所有している当社株式は四半期連結財務諸表において自己株式として表示しております。
3. 「単元未満株式」の普通株式には当社所有の自己株式64株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
トランコム株式会社	名古屋市東区葵一丁目19番30号	574,300	-	574,300	5.56
計	-	574,300	-	574,300	5.56

(注) 上記のほか、「株式給付信託(J-E S O P)」及び「株式給付信託(B B T)」制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託口)が所有している当社株式40,200株を四半期連結財務諸表において自己株式として表示しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,249	8,241
受取手形及び売掛金	20,762	20,467
商品	13	12
仕掛品	1	0
貯蔵品	16	16
前払費用	456	550
繰延税金資産	211	92
その他	165	361
貸倒引当金	2	2
流動資産合計	29,873	29,739
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	7,483	7,447
減価償却累計額	3,983	4,016
建物及び構築物(純額)	3,500	3,431
機械装置及び運搬具	4,328	4,299
減価償却累計額	3,171	3,161
機械装置及び運搬具(純額)	1,156	1,138
土地	2,701	2,701
リース資産	2,381	2,362
減価償却累計額	1,215	1,210
リース資産(純額)	1,166	1,151
建設仮勘定	-	6
その他	1,000	955
減価償却累計額	665	639
その他(純額)	334	316
有形固定資産合計	8,859	8,745
無形固定資産		
のれん	617	557
リース資産	11	2
ソフトウェア	1,472	1,437
ソフトウェア仮勘定	175	167
顧客関連資産	605	572
その他	172	171
無形固定資産合計	3,053	2,910
投資その他の資産		
投資有価証券	1,131	1,157
繰延税金資産	452	481
差入保証金	1,182	1,166
その他	169	169
貸倒引当金	21	21
投資その他の資産合計	2,914	2,953
固定資産合計	14,827	14,609
資産合計	44,700	44,348

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	10,042	9,500
リース債務	227	222
未払金	302	246
未払費用	1,406	2,271
未払法人税等	864	269
未払消費税等	574	614
賞与引当金	501	162
役員賞与引当金	16	8
その他	293	421
流動負債合計	14,230	13,717
固定負債		
リース債務	1,279	1,261
再評価に係る繰延税金負債	11	11
株式給付引当金	133	142
役員株式給付引当金	67	67
厚生年金基金解散損失引当金	309	309
退職給付に係る負債	113	108
資産除去債務	439	432
その他	524	512
固定負債合計	2,879	2,845
負債合計	17,109	16,563
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,080	1,080
資本剰余金	1,291	1,293
利益剰余金	25,914	26,142
自己株式	1,015	1,013
株主資本合計	27,269	27,502
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	71	91
土地再評価差額金	26	26
為替換算調整勘定	82	137
退職給付に係る調整累計額	15	15
その他の包括利益累計額合計	31	4
新株予約権	111	111
非支配株主持分	178	174
純資産合計	27,591	27,785
負債純資産合計	44,700	44,348

(2)【四半期連結損益及び包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	31,660	34,392
売上原価	29,700	32,519
売上総利益	1,959	1,873
販売費及び一般管理費	621	645
営業利益	1,338	1,227
営業外収益		
受取利息及び配当金	7	6
持分法による投資利益	4	-
その他	5	9
営業外収益合計	17	16
営業外費用		
支払利息	29	27
持分法による投資損失	-	2
寄付金	20	-
その他	6	5
営業外費用合計	56	35
経常利益	1,298	1,207
特別利益		
固定資産売却益	4	3
段階取得に係る差益	595	-
その他	6	-
特別利益合計	606	3
特別損失		
固定資産廃棄損	3	26
支払補償費	-	70
その他	0	0
特別損失合計	3	97
税金等調整前四半期純利益	1,901	1,113
法人税、住民税及び事業税	254	409
法人税等調整額	187	95
法人税等合計	442	505
四半期純利益	1,459	608
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,449	608
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	9	0
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17	19
為替換算調整勘定	86	60
退職給付に係る調整額	1	0
その他の包括利益合計	105	40
四半期包括利益	1,353	568
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,352	573
非支配株主に係る四半期包括利益	1	5

【注記事項】

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、株価及び業績向上への従業員の意欲や士気を高めることを目的として、「株式給付信託(J - E S O P)」制度を導入しております。

(1) 取引の概要

本制度は、予め当社が定めた株式給付規定に従い、当社及び当社子会社の従業員のうち一定の要件を満たす者に対して、当社の株式を給付する仕組みであります。

また、本信託の信託財産に属する当社株式に係る議決権の行使は、信託管理人からの指図に従い受託者が行いますが、かかる行使には、株式の給付対象者となる従業員の意思が反映される仕組みであります。

(2) 信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する会計処理

「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日)第20項を適用し、従来採用していた方法を継続しております。

(3) 信託が保有する自社の株式に関する事項

信託が保有する当社株式の信託における帳簿価額は、前連結会計年度128百万円、当第1四半期連結会計期間124百万円で、株主資本において自己株式として計上しております。

また、当該株式の期末株式数は、前連結会計年度29,400株、当第1四半期連結会計期間28,400株、期中平均株式数は、前第1四半期連結累計期間23,953株、当第1四半期連結累計期間29,025株であり、1株当たり情報の算出上、控除する自己株式に含めております。

(取締役等に対する株式報酬制度)

当社は、中長期的な業績の向上と企業価値の増大に貢献する意識を高めることを目的として、「株式給付信託(B B T)」制度を導入しております。

(1) 取引の概要

本制度は、予め当社が定めた役員株式給付規程に従い、当社の取締役(監査等委員である取締役及び社外取締役を除く。)並びに執行役員(以下、「取締役等」といいます。)に対して、当社の株式を給付する仕組みであります。

また、本信託の信託財産に属する当社株式に係る議決権は、信託管理人からの指図に基づき、一律に行使しないこととします。

(2) 信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する会計処理

「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日)に準じております。

(3) 信託が保有する自社の株式に関する事項

信託が保有する当社株式の信託における帳簿価額は、前連結会計年度68百万円、当第1四半期連結会計期間68百万円で、株主資本において自己株式として計上しております。

また、当該株式の期末株式数は、前連結会計年度10,800株、当第1四半期連結会計期間10,800株、期中平均株式数は、前第1四半期連結累計期間 - 株、当第1四半期連結累計期間10,800株であり、1株当たり情報の算出上、控除する自己株式に含めております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
減価償却費	332百万円	379百万円
のれんの償却額	32	45

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月16日 定時株主総会	普通株式	389	40.00	平成28年3月31日	平成28年6月17日	利益剰余金

(注)平成28年6月16日定時株主総会決議の配当金の総額には、「株式給付信託(J-E S O P)」制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託口)が所有している当社株式24,100株に対する配当金0百万円が含まれております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	380	39.00	平成29年3月31日	平成29年6月28日	利益剰余金

(注)平成29年6月27日定時株主総会決議の配当金の総額には、「株式給付信託(J-E S O P)」及び「株式給付信託(B B T)」制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託口)が所有している当社株式40,200株に対する配当金1百万円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益及 び包括利 益計算書 計上額 (注)3
	ロジス ティクス マネジメ ント事業	物流情報 サービス 事業	インダス トリアル サポート 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	11,639	17,350	1,864	30,854	805	31,660	-	31,660
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1	21	103	126	225	352	352	-
計	11,641	17,372	1,967	30,981	1,031	32,012	352	31,660
セグメント利益	700	592	27	1,320	49	1,370	31	1,338

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報システム開発事業及び自動車整備事業により構成し、一部の海外展開のための本社費用を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 31百万円には、セグメント間取引消去0百万円、のれんの償却額 32百万円が含まれております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

Transfreight China Logistics Ltd.の出資持分を追加取得し、連結子会社としております。

これに伴い当第1四半期連結累計期間においては、全社資産としてののれんが1,202百万円増加しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益及 び包括利 益計算書 計上額 (注)3
	ロジス ティクス マネジメ ント事業	物流情報 サービス 事業	インダス トリアル サポート 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	11,598	19,127	1,955	32,681	1,711	34,392	-	34,392
セグメント間の 内部売上高又は振替高	0	22	137	159	216	376	376	-
計	11,598	19,149	2,093	32,841	1,927	34,768	376	34,392
セグメント利益 又は損失()	676	721	23	1,421	150	1,271	43	1,227

(注)1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外物流事業及び情報システム開発事業等により構成しております。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 43百万円には、セグメント間取引消去1百万円、のれんの償却額 45百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っておりません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	149円31銭	62円72銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	1,449	608
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	1,449	608
普通株式の期中平均株式数(株)	9,707,528	9,709,961
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	148円89銭	62円55銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(株)	27,500	26,795
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 資産管理サービス信託銀行株式会社(信託口)が保有する当社株式を、「1株当たり四半期純利益金額」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第1四半期連結累計期間23,953株、当第1四半期連結累計期間39,825株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8月 9日

トランコム株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 渋谷 英 司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 増 見 彰 則 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているトランコム株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、トランコム株式会社及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。